



## 伊豆山童園記

伊豆山童園長 中田保

遊覽客の財布を目當に喰つていて、生産施設の一つもない特異都市熱海は、幼児保育機關の發生状態も又變つていて、全國的にも恐らく類例の少ないものであらう。

即ち、熱海市では、公立の幼稚園、保育所が一つもなく私立の保育所が各地域ごとに九ツもあり、そしてその九ツの保育所の内、七ツの保育所の園長さんは、お寺の住職か神社の宮司又、教會の神父さん達である。

その園長さんの中の變り種であり又奇人とされているのがかくいう私で、私の職業は、熱海の郊外温泉村である伊豆山の旅館のオヤヂであつて、本年三十二歳の青年（？）であることが餘程風變りであると思つて、耕園種になつたり、保育關係の最高權威雜誌である、この「幼児の教育」

に顔を赤らめながら文章を書かねばならないハメになつてしまつた。

青年の道樂としては、大變な冒険であり、なんと奇特な行爲であるとされ、童園開設當時はこのせまい部落では、私の友人の悪童どもは口を揃えて「可愛いそうに彼は老衰した」ともいわれ、仲には「お寺の坊さんの袈裟を掛けたらどうか」——とも悪口をたたく者も出てくるしまつてあつた。

こんなウワサも、私の教育者としての知識と經驗の缺除を心配した人々の、危険視であり、憐愍感の同情的言葉であると考え、私の心の半分は、有難い忠告として甘受し、もう一方の半面では「なにクソ！必ず成功して見せる！」

と反撥したことであつた。

この伊豆山は、熱海の中央から一里も離れ、村は雛段の様な階段状になつており、道路は總て坂道で、嘗て某書店發行で發刊された、中等學校用地地理教科書に、典型的階段部落として、寫眞がのつていた程で、この村に七百の世帯と、約三千五百の人間が住んでいる。

従つて、幼児は戸外の遊び場所がなく、隣近所を行くにも坂を登り降りしなければならぬ危険があるため、どうしても家庭内で遊ぶことが多くなつて、肉體的には運動不足になり、心理的には、一人つ子の様に社會性に缺ける結果になつて、村の地形が幼児の教育環境に悪影響を及ぼしている點が憂慮にたえなかつた。

又村には小學校もなく、まして幼稚園や保育所もなく、教育機關が一つもないことは、村人の不幸であつた。こうした村の狀態から幼児教育の焦眉の急が、若い人達の間で叫ばれ、又村の教育機關の先驅的意圖も同時に手傳つて、保育所設立の空氣が醸成され、昭和二十三年五月に私自身がその音頭とりとなつて、保育所設立の研究と準備にとりかかつた。

.....◇.....  
保育所の位置としては、村の中央にある、お寺が最適と

考へ、又輿論調査の結果も寺を希望する者が多かつたのと  
お寺には廣い敷地と、大きな建物があり、即座に開園出来る可能性があつたので第一候補地とした。

どうかすると、寺は葬式の間だけであり、祖先のための佛事の氣休め場とのみ考えられてゐる現在、村人の寺への無關心さをなんとか回復するためにも、保育所開設は誠に有意義なことだと思つた。そして寺の住職も又共鳴したので、壇徒總代の老人連中を口説きにかかつた。

住職は、保育所開設を賛同したが、積極的には動かかなかつたので、私自身が總代に個々に接渉したり、又寺總代會の席上で、保育所設置の必要を十數回も説いた。然しいつも「お説、誠に結構」を繰返すのみであつたので、私は昨年の正月の終に、保育所經營は財政的に不利を理由に斷わられてしまつた。

それで半年間の努力も水泡に期したが、私はむしろ反撥心をあほられた形もあり、保育所設置の決心を尙一層強く燃したことであつた。

そこで、昔、青年夜學校があつた所で、現在村の公會堂ともいふべき建物に目をつけ、この建物の管理者たる青年會を説得、これを借用する事になり、ようやく念願の保育所建物も決つたので、昨年四月、伊豆山童園設立準備會(假稱)を正式に作り、六月初旬開園をめざして、若い人々

の間で準備を急いだ。

開園準備の第二着手として、保母の募集を始めた。私は保母の應募者の中から、無経験な、優秀な若い人を四名採用した。その中から三名を學級擔任に、一名を庶務給食に當てた。

保母採用に當つて、敢えて保母経験者を採さず、又採用しなかつたのは、第一に職員間のチームワークを考えたことと、園長としても経験者の保母に、全てを教はらねばならないことであつた。それは負けず嫌いな私のプライドが満足しないことであり、又経験者の保母がいると、他の初心者の保母達は依頼心をおこし、研究心や向上心をそぎ、それに加えて、経験者の保母が、かつてどこかの園で身につけた習慣やクセを押し賣りする結果になり、この伊豆山童園の新しい雰圍氣を作るべき情熱的欲求が失われる點を怖れたのであつた。

三十歳過ぎの未亡人等の保母志願者もあつたが、若い人でないと新時代の教育方向をそしゃくし、考へ方の轉換が比較的困難であろうと思ひ採用を見合せた。

自尊心の強い、向う見ずの園長ではあるが、私自身は、この新しい教育的未知の世界を必死になつて研究し、創造して開拓者的スリルを味わいたかつた。それは大變な勉強

の時間を必要としよう。心を苦め、體を削り、本職の營業にも大きな支障をきたそうが、然しそうした苦勞を樂しみたかつた。

幼児教育には、みんな無経験な保母達と園長は、同じスタートラインに列び、一せいに保育者としての勉強の競走に出發し、苦しい競走ではあるが、遠い理想の灯を目指して懸命の努力を續けて、園長は必ずや絶對的な優勝者としてリードし、保母達を誘導すべき堅い決意と責任を痛感したものであつた。私は保母達には負けない自信と努力を心に誓つていた。

そうした開園當時の方針と決意は、大した誤りでなかつたことが今になつて證明されている。

私が園長をやる豫定ではなかつた。童園設立迄のお膳立は私が主唱者の責任としてやるにしても、園長は比較的體に閑のある老人を頼もうと物色したが、村の老人には適當な教育人がなかつたことと、非常に大變な仕事である豫想と、無給であることが原因してみつからず、私が設立、經營、教育の責任者とされ、従つて園長もおしつけられる結果となつてしまつた。

童園設立に要す費用、十數萬圓も私が立替え、開園後に父兄並びに一般から寄附を仰ぎ、村中の人々がもり立てた童園として意義あらしめたい考へであつた。

伊豆山童園設立準備會は、後に伊豆山童園經營協議會となり、發起人と母の會役員と、後援者を以て組織し、後援團體として、母の會と後援會を作つた。この童園を設立するまでは、私の友人達の若い小學校の同窓生二十數人の人々の献身的努力があつた。

即ち、その仲間の内には、家具屋さんあり土木請負師や植木屋さん等、種々雑多な職業を持つた者が含まれてゐたため、机や椅子は家具屋さんが作り、砂場や便所は請負師がそれぞれ實費で奉仕してくれ、又村の有志達は進んで、材木や遊具の寄附を申出て、開園準備は、村中の教育愛好者達の待望と大なる聲援のうちに急速に進捗した。特に村の奥さん達の感謝の聲は、絶大なものがあつた。

かくて保育所、伊豆山童園は大きな希望と、發起人たちの犠牲と夢をのせて、昭和二十四年六月十三日、正式に晴れの開園式をあげたのであつた。その時の園児數は一〇二名であつた。

開園前後から、熱海童園長の奈園先生は、保育所經營九年間の經驗から、經營の手ほどきから、保育の實際に至る迄、赤子の手をとる様に、その蘊蓄を傾けて指導して下さいました。先輩や保育關係官廳の人々の温かい精神的援助は、

何よりも私を力付けてくれた。そうした人々や郷黨の助言や熱心な聲援に對し、自責の念を燃やし、成功せずは止まざる決心を愈々強くした。

開園後、幸いにも、幼児保育關係の本は、續々刊行された。そして私は片つ端から自費でそれ等の本を買つた。早く知識を得たい衝動にかられてゐた私は、仕事の餘暇を盗んでは、三十數冊の本を文字通り讀み飛ばした。

私が幼児教育の餓鬼の様に知識の探求に勉めてゐる間に保母達も保育の實踐に従事しつゝした勉強が芽を吹いてきて、十一月三日の運動會の成功は、村人に感嘆の叫びを上げさせる程に發展した。

保育は失敗の連続であり、一進一退を續けた。時には保母達は、自身の能力を卑下し、保育の困難さに悲嘆する者もあつたが、私は常に鼓舞激勵し、そして勉強を強請した。總ての本には全職員の讀了日を記入させるように命じた。それは保母の眼には、園長の態度が冷酷に響いたのである。『園長さんは冷たい人だ』……ともいわれた。然し私は努力を讚美し、怠惰と無爲と非能率を排斥した。

認可になつてゐる市中の多くの保育所は給食物資の配給をうけて、給食を始めた時に、未認可の私の園もなんと給食を開始したりした。

私の目標は、一日も早く、古い保育所と同じ程度に保母

や保育内容を向上させる事だつた。そしてそれは開園してから、六ヶ月でほゞ達成された。

『問題の子供』も減少した、子供達は伸び／＼と元気に遊んでおり、社会性もついてきた。保母達も雨の日には、やる事がない／＼などといわなくなつた。

私が保母達に強く要求した烈しい精神労働は、保母達と園を一段と向上させた。それは保母達がよい素質を持つてゐる故に一層倍加されたものであろう。

確かに伊豆山童園は、新知識の吸収消化に夢中であり、清新の氣と、理想を追求して止まない若さがあるのである。

けれどもそれを反面から考えると、それは精神年齢の若さの苦惱であり、経験と學識の低さを意味し、理論の空轉であり保育方針の無軌道の證左ともいふべきであらう。

この様な事柄は、全國幾千かの保育所や、幼稚園創立者の誰もが體驗したことであり、私の幾十倍も苦心した先輩諸氏も數多いことであらう。

私のチョットした思い付きが、かくまでに發展し、奇人といわれたり、名物男にされたりして道樂としてはとんでもない結果になつて、引くに引けない立場に追い込まれてしまつた。旅館營業と童園との二つの世界の欲深い向上心

は、今さら乍ら自分で自分を苦しめるばかりであると思ひ自分の性格にあきれている。

結果からみると、童園長としては、その無鐵砲者を、幸運の神に味方されただけが業績の總てであらう。

### 幼児の 二月號

### 幼児の 三月號

カリキラム論の立場

吉田

先生方の休養

倉橋

保育の廣い視野

秋田

性格形成論

波根

遊戯治療の諸問題

相場

戸外保育と日光

平井

新しい保育

副島

年中行事と保育

内山

フレーベル著「リナは如何にして讀み書きを學ぶか」(六)

莊司

保育に於る生活ばなし

上澤

幼稚園舎構造の一考案

守安

子供讀歌(六)

倉橋

幼児の心理的發達(八)

山下

東京部保連のカリキラム立案に當つて

松石

記録・官廳公示連絡事項

山下

幼児の心理的發達(九)

山下

記録・官廳公示連絡事項

山下

兒童福祉法による措置等のため支出する費用の限度・

その他

幼稚園教育課程・幼児指導要録協議會・その他

その他